

■会議報告

International Workshop on Electronic Spectroscopy for Gas-phase Molecules and Solid Surfaces (Matsushima Kaigan, October 12–15)

上田 潔 (東北大多元研)

2009年10月12日から15日の間、松島海岸のホテル大観荘において、International Workshop on Electronic Spectroscopy for Gas-phase Molecules and Solid Surfaces (IWES2009)を開催しました。IWES2009は、その直前に奈良で行われた International Conference on Electronic Spectroscopy and Structure (ICES2009)のサテライトワークショップです。対象を気相分子と固体表面に限定し、電子分光および相補的な実験手法を用いた最先端の研究について緊密な議論を行い、その将来を展望することを目指しました。アメリカ・ドイツ・フランス・イギリス・イタリア・スウェーデン・中国・インド・韓国等の多くの国々から約90名が参加して、非常に活発な議論が展開されました。招待講演19件、一般講演17件、ポスター発表53件を含むプログラムはIWES2009のホームページ <http://res.tagen.tohoku.ac.jp/~iwes2009/>に掲載されていますので、参照していただければ幸いです。

IWES2009の特徴のひとつは、気相分子と固体表面という2つの分野で最先端の研究を行っている研究者が一堂に会して、美しい自然に囲まれたリゾートホテルにおいて寝食を共にし、分野を超えた議論をする点にあったと言えます。電子分光の Gordon Research Conference (GRC) が ICES の前身の International Conference on Electron Spectroscopy (ICES) となって以来、パラレルセッションが行われるようになりました。これにより、参加者はそれぞれの分野のセッションに参加し、いつの間にか分野を超えた議論の場が少なくなってきました。これまで、ICES, ICES2009 をリードしてきた研究者の一人である Chuck Fadley 教授は、一つのセッションに全員が参加して議論する IWES2009 には、まさに昔の GRC 以来失ったものがあると喜び、Wolfgang Eberhardt 教授や Juergen

Kirschner 教授, Lorenz Cederbaum 教授, Joachim Ullrich 教授らとともに分野を超えたラディカルな議論をけん引していました。Kirschner 教授が異なる分野の河内宣之教授の講演に感銘を受け、「ポケットに入れて持って帰るのができた。われわれも電子と光子との同時計測を考えたい。」と言ってらっしゃったのは、まさに今回のワークショップの成功を物語るエピソードのひとつであるかと思えます。

IWES2009には実はもう一つの隠された意味がありました。私とともに Cochair を担った河野省三先生が2010年3月で東北大を退職されます。このこともあって、Shozo (河野先生)のお祝いだ! と Fadley 教授(米国)をはじめ、Phil Woodruff 教授(英国), Joerg Osterwalder 教授(スイス), Yeom Hang Woong 教授(韓国)等々、河野先生の親しい友人や後輩が世界中から続々と集まってこられました。バンケットでは Fadley 教授が写真を交えて若かりし頃の河野先生を紹介し、まさに河野先生の退職を祝う会と化した会場は大変な盛り上がりを見せました。本バンケットの様子は IWES2009 のホームページに掲載された写真で見ることができますので、ご笑覧下さい。エクスカッションで、かもめと戯れる研究者の子供のようにはしゃぐ様子も、写真でご覧になれます。一見の価値あり! です。

最後になりましたが、本ワークショップは、東北大多元研の主催により、森野基金、東北インテリジェントコスモス、カシオ財団の援助を受けて行われました。本ワークショップの成功は、これらの援助とともに、参加された皆様、ホームページに記載されている組織委員会・実行委員会の皆様のおかげです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。